

第2回議会報告会「議員と話そう、みんなで話そう」 第2部意見交換まとめ

<2月1日（中央公民館）>

「これからの地域交通」グループ①

普段使う交通手段は「車」が多く、るのバス利用者は「0」。公共交通が充実すれば、「外出しやすくなり、ひきこもりをなくせる」「まちがにぎやかになる」。今後の地域公共交通に望むことは、「降りたいところで降りることができる、きめ細かな対応ができる交通手段」、「多少料金が高くても家から目的地まで行けるタクシーを公共交通として充実する方がよい」。

「これからの地域交通」グループ②

自家用車を利用している人が多く、公共交通を使わない要因になっている。運転免許を返納した人に1年間だけ、るのバス無料乗車証が出るが、75歳以上全員がタダになるとよい。JRから車両を借りてダイヤの空いている時間に1両だけでも走らせたらかどうか。

「議会に望むこと」グループ①

専門家だと思って任せているので傍聴に行かない。「ギカイの時間」は知っているがじっくり読めていない。私たちも市の将来の不安・借金などを理解し、一緒に考えたい。将来のため議員の力を合わせて、合意形成を図って。報告会を何度もやってほしい。

「議会に望むこと」グループ②

議会を傍聴する人が少ないのは、市民が議会に面白味を感じないからだと思う。議員の役割はもっと市民を巻き込んで、市を動かしていくことだと思う。型通りの報告会ではなく、市民と議員が自由に語り合うオープンスペースをつくってはどうか。そこで出された市民からの声を議会に反映させるようにしてほしい。

「子どもの居場所」グループ

子どもを見る場所は公園等あるが、たくさん集まっているところはない。昼間は学校、夕方は学童もしくは習い事で外で遊んでいる子どもを見なくなっている。異年齢が交流できる場があると良い。大人が手本のあきる野市というが、親が手本を示していない。親が「忙しい」を理由にしないで欲しい。

<2月4日（五日市地域交流センター）>

「これからの地域交通」グループ①

今後、現在の車移動が主の生活に不安はある。健康で外出がいつまでもできるために、地域での支え合いの仕組みや、デマンド交通でボランティア運転手がいると助かる。そのボランティアや、新技術で安全機能をもつ車の購入などに補助を出すことなど検討して欲しい。

「これからの地域交通」グループ②

普段使っている交通手段は、「車、JR、自転車」。るのバス利用者は「0」。使いたい公共交通は、JR、タクシー、バス。公共交通が充実すれば、「安心できる生活」、「買い物や病院への外出が便利になる」「人との交流や若者が増える」「観光に良い影響がある」という効果がある。また、るのバスなどがもっと便利になれば、あわせてJRも便利になると思う。

「議会に望むこと」グループ①

傍聴したが平凡な議会。「ギカイの時間」に議案の賛否を載せてほしい。選挙にも影響するはず。夕張市と比較してばかりではダメ。「ではどうするか」が大事。議員の討議をもっと活発に、互いの意見を聞き、市民を豊かにするために21人一丸となってほしい。

「議会に望むこと」グループ②

選挙で議員を選ぶだけでなく、その後、議会を監視するのが有権者の役割だと思う。いきなり傍聴に行くのは難しいが、このような報告会は議会に関心を持つきっかけになる。区画整理事業や財政問題など議会を二分する問題については、全員協議会のような形で議員が自由に議論し、それを市民が傍聴するようにしたらどうか。若い人たちが議会報に親しみが持てるように、議会のキャラクターをつくって議会報に載せてはどうか。

「議会に望むこと」グループ③

市長への手紙があるのであれば、議長への手紙があっても良い。それ以上に議員に対して直接質問できる場が欲しい。また議案については全議員で議員間討議が行われているのか。市のことだけではなく、核の問題など国に対してもしっかりと意見を行って欲しい。市民は議員を頼りにしている。

「子どもの居場所」グループ

公園、学校、幼稚園、保育園、学童クラブ、大型商業施設、コンビニ等が挙げられたが、子どもが遊んでいる姿を見ることが昔に比べて少なくなってきた。また、地域によっては、子どもがほとんどいない地域もある。あきる野市は、自然豊かで子ども達がたくさん遊べる場所があるのに制限が多いため、プレイパークの中で自由に遊ぶことができるように望む声が多かった。